

中 学 校

平成 2 3 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究の概要	
1	研究のねらい（研究主題設定の理由）	1
2	研究構想図	2
II	基礎研究	
1	研究の視点	3
2	「自ら表現を工夫する」ということの定義	3
3	〔共通事項〕を手掛かりとした指導	4
III	生徒の主体性と〔共通事項〕についての調査	
1	調査概要	5
2	調査内容と結果	5
3	調査結果の読み取りと考察	7
IV	実践事例 ―検証授業の学習指導案―	
1	歌唱分野における検証授業	8
2	鑑賞領域における検証授業	14
V	成果と課題	22
VI	調査資料データ	23

研究主題 「生徒が自ら表現を工夫できる指導法の開発」 —〔共通事項〕を手掛かりとして—

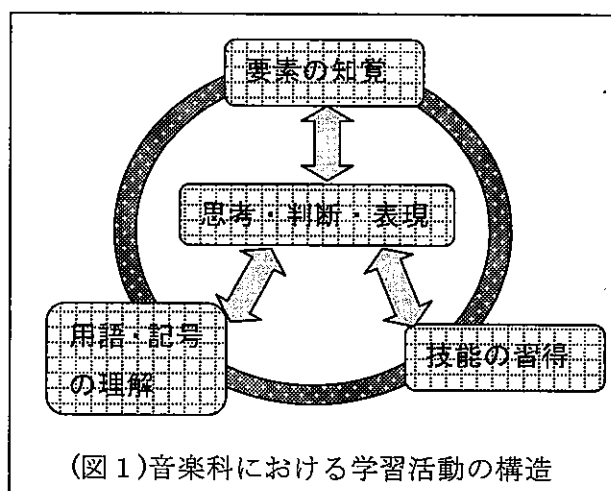
I 研究の概要

1 研究のねらい（研究主題設定の理由）

平成20年1月の中央教育審議会答申では、子供たちが身に付ける学力の一つとして「主体的に取り組む態度」が挙げられている。また、音楽科の改善の基本方針の中では、「思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする」ことや「音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解する」ことが示されている。

私たちは、生徒が学習したことや知っていることを自分の思いや表現に結び付けたり、自分が知覚・感受したことや工夫したことを適切な用語や記号を用いて説明したり、他者に伝えたりすることに課題を感じている。このことは、国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査」（平成22年7月）でも、実際に歌唱した表現と、自分が考えて楽譜に記入した強弱記号との関係について両者に整合関係が見られた生徒が

26.3%、実際に歌唱した表現と、自分が考えた表現の工夫を文章で記述した内容との関係について両者に整合関係が見られた生徒（「自分が考えた表現の工夫を生かして歌うこと」が認められる生徒）が28.4%という結果に表れている。また、同調査結果からは、音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号を理解することと、思考・判断したことを生かして表現することやその表現を支える技能を身に付けることには関係があると考えられる（図1）。



以上の理由から、私たちは、生徒に自分の思いや意図をもたせ、表現の工夫における主体性を高め、生徒が思考・判断したことを生かして表現するための基礎的な技能を身に付けることが必要であると考え、本研究主題を「生徒が自ら表現を工夫できる指導法の開発」と設定し、効果的な指導展開や教材を開発し、指導法の改善について検証することとする。

また、前述の「音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号を理解すること」は、学習指導要領で新設された〔共通事項〕に示されており、今後は、音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりする指導を充実することが重要である。

そこで、本研究副主題を「共通事項を手掛かりとして」と設定し、実際の授業や指導計画の中で、共通事項をどのように扱うかという視点から研究を進めていくこととした。

2 研究構想図

学習指導要領改訂の背景

平成19年6月に改正された学校教育法では、小・中・高等学校において育成する学力について、「基本的な知識や技能の習得」「思考力、判断力、表現力などの課題を解決するための能力」「主体的に取り組む態度」が示された。平成20年1月の中央教育審議会答申では、音楽科の改善の基本方針について、次のような内容が示されている。

- ・音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力を育成すること。
 - ・音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解することなど表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する。
- また、改善の具体的事項では、創意工夫して表現したり味わって鑑賞したりする力の育成が重視された。

指導と生徒の実態（平成22年7月 国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査」から）

歌唱の授業において、「自分の思いや意図」「歌詞の内容」「旋律やリズムの特徴」「強弱や速度」「パートの役割」について、いずれも約8～9割の教師が指導を工夫していると回答している。しかし、生徒が実際に歌唱した表現と、自分が考えて楽譜に記入した強弱記号に整合関係が見られた生徒は26.3%。実際に歌唱した表現と、自分が考えた表現の工夫を文章で記述した内容に整合関係が見られた生徒は28.4%であった。また、生徒が実際に歌唱した表現を採点した結果、豊かな表現で歌っていると認められるものは、そうでないものより「要素の動きを表す用語や記号の理解など」に関する問題の正答率が高い。

一方、鑑賞の授業において、生徒が音楽の諸要素やそれらの動きと曲想とを結び付けて、言葉で表すことができるように指導を工夫していると回答した教師は約5割であり、鑑賞した曲の紹介文を書く活動において、これを実現している生徒は33.8%であった。

目指す生徒像

- ① 基礎的・基本的な知識や技能を習得している
- ② 知識・技能を活用し、表現する力がある
- ③ 自ら考え、表現を工夫し、どのように音楽で表すかの思いや意図をもっている
- ④ 知覚・感受したことを適切な言葉で説明、表現できる
- ⑤ 興味、関心、意欲、向上心をもって活動できる

音楽科に求められるもの

- 「A 表現」音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、思いや意図をもって、歌唱、器楽、創作で表現することができるようにすること
- 「B 鑑賞」楽曲のよさや特徴を解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにすること

研究主題

生徒が自ら表現を工夫できる指導法の開発

—共通事項を手掛かりとして—

研究のねらい（研究主題設定の理由）

今回の学習指導要領における音楽科の改善の基本方針（平成20年1月 中央教育審議会答申）には「思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりすること」「音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解すること」が示されている。

これに対して私たちは、生徒が自ら既習の内容や体験を自分の思いや表現に結び付けたり、知覚・感受したことや工夫したいことを適切な用語や記号を用いて説明したり、他者に伝えたりすることに課題を感じており、このことは国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査」（平成22年7月）の結果にも現れている。また、同調査結果からは、音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの動きを表す用語や記号を理解すること、思考・判断したことを生かして表現することやその表現を支える技能の習得には関係があると考えられている。

以上の理由から表現の工夫における生徒の主体性を高め、生徒が思考・判断したことを生かして表現するための基礎的な技能を身に付けることが必要であると考え、本研究主題を「生徒が自ら表現を工夫できる指導法の開発」と設定し、効果的な指導法を開発・検証することとする。

また、前述の「音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの動きを表す用語や記号を理解すること」とは、学習指導要領で新設された〔共通事項〕に示されており、今後は、音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながらから思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりする指導を充実することが重要である。

そこで、本研究副主題を「共通事項を手掛かりとして」と設定し、実際の授業や指導計画の中で、共通事項をどのように扱うかという視点から研究を進めていくこととする。

仮説 共通事項を手掛かりとして指導法を改善していけば、生徒が自ら表現を工夫することができるのではないかと

基礎研究

- ・文献研究
- ・先行研究の考察とまとめ
- ・音楽を形づくっている要素と働き
- ・本研究における「表現の工夫」の定義

調査研究

- ・国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査」調査結果の考察
- ・自校生徒へのアンケート調査 生徒の変容

開発研究

- ・共通事項を手掛かりとした指導法の開発
- ・「表現の工夫」を引き出すワークシートの開発
- ・表現領域歌唱分野、鑑賞領域の実践事例開発

授業研究

- 《表現領域歌唱分野における検証授業》
- ・音楽を形づくっている要素と声部の役割を理解して表現を工夫する
- 《鑑賞領域における検証授業》
- ・要素の動きを理由に挙げながら、価値判断し、鑑賞を深める

1 研究の視点

そのために、音楽を形づくっている要素などの学習を支えとして、感じ取ったことを基に思考・判断し、音楽を豊かに表現したり、鑑賞を深めたりすることができるような指導の一層の改善を図っていく必要がある。私たちは、本研究を実践的な研究として、具体的な指導場面で活用できる資料の作成などを意図して推進した。

生徒が自ら表現を工夫できるようになるためには、

〔共通事項〕を手掛かりとして学習させることは、一人一人が自己のイメージや感情を意識し、思いや意図をもって表現活動を進めていくことにつながる。

音楽は、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの要素によって形づくられている。これらの要素を知覚・理解することによって、生徒の漠然としたイメージが、明確なものへと変化する。

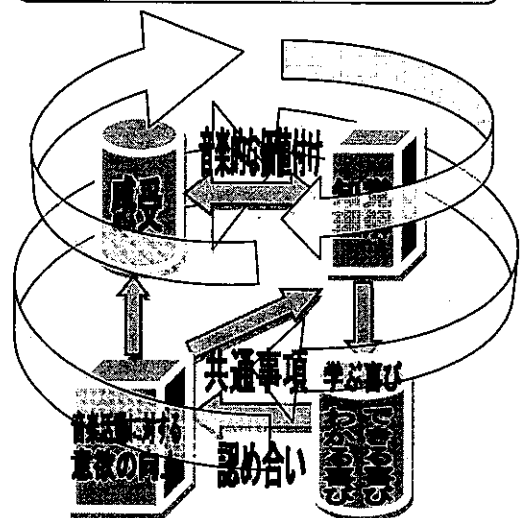
例えば、共通事項を支えとした指導、支援が「歌ったり楽器を演奏したりする」→「生徒自ら考え表現を工夫し、どのように音楽で表すかの思いや意図をもっている」、また、「音楽を聴き漠然とイメージしている」→「音楽を聴き、知覚感受したことを、適切な言葉で表現する」と変化する手掛かりとなる。

以上のことから「自ら表現を工夫する」ということを

生徒が音や音楽に対して膨らませたイメージを、〔共通事項〕に示されている様々な要素を手掛かりとして試行錯誤しながら

- ① 表現領域では、自分なりの思いや意図をもって表現すること。
② 鑑賞領域では、根拠をもって自分なりの価値や考えを表現すること。

自ら表現を工夫できる生徒の育成



(図 2) 定義の根拠構造図

3 【共通事項】を手掛かりとした指導

新学習指導要領では、【共通事項】を新設し、

- ・ 音楽を形づくっている要素に関する学習を基にして、感性を高め、思考判断し表現すること
- ・ 用語や記号について音楽活動を通して理解すること

などを重要視している。

そこで、【共通事項】の学習を支えとして

- ・ 「A表現」では、音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、思いや意図をもって、歌唱、器楽、創作で表すことができるようにすること
- ・ 「B鑑賞」では、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考えたり、音楽を解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにすること

が求められ、音楽の要素やそれらの働きを捉え、それを手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり、鑑賞を深めたりするような指導の工夫が必要である。学習指導要領解説音楽編には、音楽を形づくっている要素ごとに学習指導の例が記載されているので抜粋し、以下のように一覧表にまとめた。

<共通事項の要素に関連する学習例一覧>

大きくくり	音楽を形づくっている要素	学 習 の 指 導 例
音	音色	声や楽器の音色、自然音や環境音、曲種に応じた発声及び楽器の奏法による様々な音色、それらの組合せや変化などが生み出す響き
音と音との時間的な関係	リズム	拍や拍子、リズムパターンとその反復や変化、拍節的なリズムや拍節的でないリズム、我が国も伝統音楽に見られる様々なリズム、間
	速度	ふさわしい速度の設定、速度を保ったり様々に変化させたりすること、緩急の対比、我が国の伝統音楽に見られる序破急
連なりや織りなす関係	旋律	音のつながり方、旋律のもつ方向性、フレーズ、旋律装飾（装飾音、コブシ、ポルタメント）旋律が基づくところの音階（我が国や諸外国の音楽に使われている様々な音階）、調
	テクスチャ	音や旋律の組合せ方、和音や和声、多声的な音楽、我が国の伝統音楽に見られる様々な音と音との関わり合い
音量の変化	強弱	ふさわしい強弱の設定、強弱を保ったり様々に変化させたりすること、強弱の対比、音楽の全体や部分における強弱の変化
音楽の組立て方	形式	二部形式、三部形式、ソナタ形式、我が国や諸外国の音楽に見られる様々な楽曲形式、我が国の伝統音楽に見られる序破急、音頭一同形式
	構成	反復、変化、対照などの音楽を構成する原理、我が国の伝統音楽に見られる手などの旋律型を基にした構成

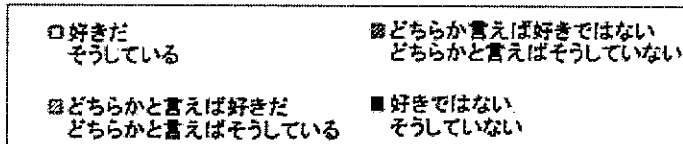
Ⅲ 生徒の主体性と〔共通事項〕についての調査研究

1 調査概要

- (1) ねらい 〔共通事項〕を手掛かりとした指導の工夫を取り入れた検証授業の前後に調査を行い、生徒の変容について明らかにすることをねらいとした。
- (2) 調査期間 平成23年9月～12月実施
- (3) 調査対象 都内4区市村立中学校5校 生徒369名に実施

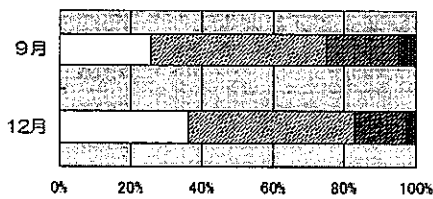
2 調査内容と結果

- (1) **調査Ⅰ**：共通事項を支えとした授業の展開が、生徒の主体的な音楽活動に対する意欲の向上につながったかについて4件法で質問紙により調査した。

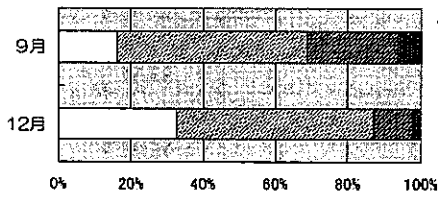


※調査結果の詳細なデータは、p23・24を参照

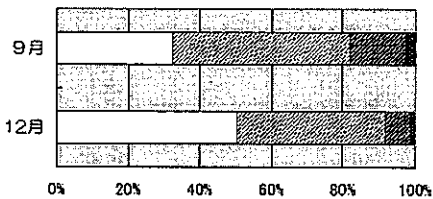
1 音楽の授業で歌うとき、自分の思いや考えが表現できるように歌うことが好きですか？



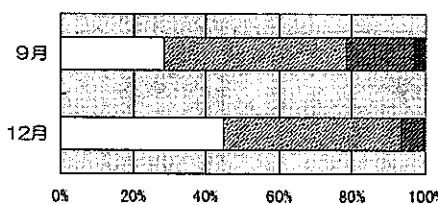
2 音楽の授業で歌うとき、旋律やリズムの特徴を生かす工夫をしていますか？



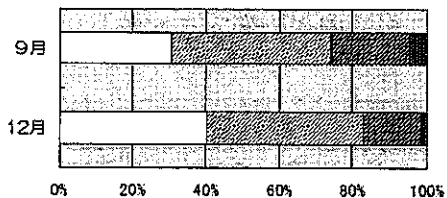
3 音楽の授業で歌うとき、その曲にふさわしい強弱や速度の工夫をしていますか？



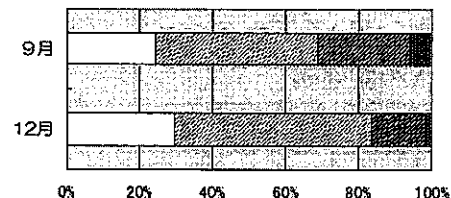
4 音楽の授業で合唱するとき、自分のパートの役割を生かす工夫をしていますか？



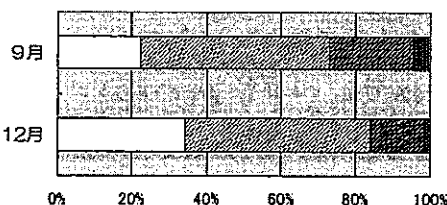
5 音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか？



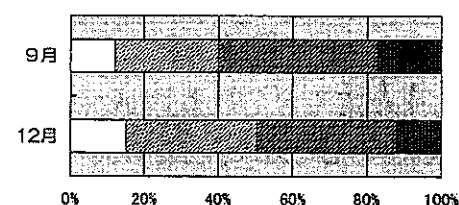
6 音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽の声や楽器の音色の特徴を聴き取っていますか？



7 音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽の旋律やリズムの特徴を聴き取っていますか？



8 音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽から感じ取ったことを言葉や文章などで表すことは好きですか？



- (2) **調査Ⅱ**：音楽を形づくっている要素等について生徒が注目している要素を選択する調査（複数選択回答可）を質問紙により実施し、表現領域歌唱分野・鑑賞領域における検証授業の前後の変容について比較した。

ア 質問の内容

事前の質問

初めて曲に取り組んだり聴いたりするときに何に注目していますか？

事後の質問

学習を通して注目できるようになった要素は何ですか？

イ 調査結果

表中の割合（％）は、調査母数中どのくらいの割合の生徒が選択したかについて、注目する要素等別に検証授業事前、事後ごとに示した。

歌 唱			鑑 賞		
注目する要素	事後	事前	注目する要素	事後	事前
リズム	85.1%	71.5%	リズム	76.0%	69.3%
旋律（メロディー）	80.7%	65.5%	旋律（メロディー）	72.3%	63.3%
テクスチャ	37.8%	10.1%	ハーモニー（響きや音の重なり）	58.3%	42.4%
伴奏	37.5%	19.0%	雰囲気	72.0%	65.5%
強弱	83.7%	52.2%	音色	52.0%	40.5%
速度（テンポ）	85.9%	64.1%	強弱	63.8%	49.2%
歌詞の内容	60.9%	32.9%	速度（テンポ）	74.5%	64.0%
言葉	44.8%	22.8%	調（長調・短調）	55.4%	26.5%
言葉の発音	57.1%	28.3%	形式	19.9%	4.2%
音色（発声）	67.4%	34.5%	構成	21.4%	11.0%
パートの役割	72.0%	37.0%	演奏者	14.8%	8.3%
調（短調・長調）	50.3%	15.2%	指揮者	15.1%	10.2%
形式	17.4%	3.3%	楽器	53.9%	42.4%
構成	30.2%	9.2%	奏法	25.5%	8.0%
			楽曲の背景	17.3%	9.1%

- (3) **調査Ⅲ**：共通事項を支えとした鑑賞の授業展開において、音楽を形づくる要素ごとに楽曲の特徴についてワークシートに記述させ、指導前後の記述内容の変容を比較した。

ア 生徒Aの記述例

要素	A欄	B欄
楽曲 の 特 徴	リズム	あまり変わらない
	速度	主題のリズムは同じで似たようなリズム
	旋律	1拍の中にいろいろな音があるから速く聞える
	強弱	いろんな旋律がある。 変わらない
	調性	あまり変わらない
	その他	短調Eから7・8回目の主題が長調
		高音でメロディをいっていたり低い音でメロディをいっていたりして
		主題以外では8拍段のようにとんとん高くなっていく

※A欄は初めて鑑賞した直後の記述、B欄は、単元終了時（4時間目）の記述

イ 生徒Bの記述例

	要素	A欄	B欄
楽曲 の 特 徴	リズム	音一つ一つが長く保たれている	短いリズムと長いリズムがあった。
	速度	ゆったりとした速さ	
	旋律	バランスよく、きれいに仕上がっている	不思議なメロディできれい
	強弱	特に一つ一つの音に対する強弱はハッキリしている	なめらかに強弱が変わっていく
	調性	短調で暗いのが明るいところもあった。	短調と長調に分かれている。わりと短調が多い。
	その他	一方は一つの音程を保つながら弾いているが、一方は音程の上下が激しいと思う	一方はゆっくりとしている(主旋律)が、一方はその主旋律を引き立てるようだ。

ウ 生徒Cの批評文の記述例

このフーガト矢豆言調は名前の通り 矢豆言調の曲です。パイプオルガンの大きく響きわたる音とかなしみや重く感じる矢豆言調の音が合わさり何かを感じさせるような曲になります。途中で長調の部分もありますが、すかすかしい野原にいてもいるかのように聞こえる場面もあります。そしてこの曲の特性は多声的に発展していく形式で、主題以外で異なってメロディがたくさんあります。そのメロディは階段のようにとんとん高くなり6分音符が使われているので、その場面では誰でも気持ちが高まります。この曲は6回目の主題までは矢豆言調、7・8回目に長調がきて、9・10と矢豆言調と続きますが、最後の音はなぜか長調で終わります。この曲を作曲してバハさんはどのような気持ちで最後を長調にしたのでしょうか。ぼくは矢豆言調で終わると暗い気持ちになるし、明るく長調の和音で終わらせようと思ったのではないかと思います。長調の和音を使うことで一筋の光が見えたような気がしました。

(最後に)

3 調査結果の読み取りと考察

調査Ⅰで最も大きな変容があったのは、「パートの役割を生かして表現する」項目である。鑑賞で主題の旋律や副旋律に注目してじっくりと聴いたことで、副旋律の役割を理解することができ、歌唱で自分が担当するパートが音楽的にどのような役割を担っているのかを理解することにも生かされた。また、全体の響きや音楽の構成を考えて、音色や強弱に着目して表現を工夫することができるかと理解した生徒が増えたことを表している。

調査Ⅱでは、旋律、リズム、強弱、速度といった要素については、比較的多くの生徒が着目していた。テクスチュア、形式、構成といった要素に着目する生徒の割合は低かったが、検証授業後は、20%前後割合が増えた。

調査Ⅲでは、生徒Aは、授業前は、気付かなかった要素にも着目し、記述できるようになり、生徒Bは、新たな視点でより分析的に要素を捉え楽曲の特徴について記述している。

全体的に事後調査のポイントが上がっているのは、生徒が音楽を捉えるのに、様々な要素があることを知覚し始めたことを表していると考えられる。生徒が〔共通事項〕を手掛かりとして「できる喜び」「わかる喜び」を感じることで、より主体的に表現しようとする生徒の育成につながることもこの調査から分かった。音楽科の授業は、〔共通事項〕を窓口として指導計画を立て、授業展開の工夫を図っていく必要がある。生徒が自ら表現を工夫できる主体性を育み、創意工夫して表現したり味わって鑑賞したりする力を付けていきたい。

Ⅳ 実践事例—検証授業の学習指導案—

1 歌唱分野における検証授業

- (1) 題材名「音楽を形づくっている要素と声部の役割を理解して表現を工夫しよう」
- (2) 題材設定の理由について

授業で合唱曲を扱う際には、限られた時間で楽曲を効果的に仕上げるために、教師が指揮者となって様々な指示を出し教え込むという、教師主導の授業になってしまうことがある。

しかし、今回の学習指導要領改訂では、A表現の内容について、従前の「合唱や合奏をすること」が「合わせて歌うこと」とされ、そこには、生徒同士が思いを伝え合いながら合わせて歌おうとする意識を高めることを大事にするという意味も込められている。

そこで、本題材では、第1次で生徒が主体的にパート練習を進め、既習事項を生かして表現を工夫しながら歌う活動を行い、同時に、音楽を形づくっている要素に十分に注目させて、共通事項の定着や深化を図る。

また、第2学年及び第3学年の内容 A 表現(1) 歌唱に関する内容 ウ には、「声部の役割や全体の響きを理解して」とあり、第1学年の「感じ取り」よりも、この点について、更に主体的に思考・判断できることが重要である。そこで、第2次では、共通事項の中から「テクスチャ」に焦点を合わせて、生徒が副次的な旋律を分析し、工夫して表現する授業を展開する。

- (3) 学習指導要領の指導事項(第2学年及び第3学年)

【A表現：(1) 歌唱】

ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。

ウ 声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

〔共通事項〕

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

- (4) 指導事項から導き出される具体的な指導内容

【A表現：(1) 歌唱】

ア 各自が音楽を形づくっている要素やその要素の変化などの働きを知覚・感受し、それを生かして曲にふさわしい音楽表現の仕方を考え工夫して歌う。

ウ 音楽を形づくっている要素やその要素の変化などの働きを知覚・感受しながら、声部の役割を理解して全体の響きとの関わりを生かした音楽表現の仕方を考え工夫して歌う。

〔共通事項〕

音色、リズム、旋律、テクスチャ、強弱



(5) 教材

混声三部合唱「予感」 片岡 輝 作詞 / 大熊崇子 作曲

(6) 題材の目標

音楽表現に必要な基礎的な歌唱技能を身に付け、音楽を形づくっている要素の変化や声部の役割などの働きを知覚・感受して表現の仕方を考え、音色や強弱などの工夫をして歌う。

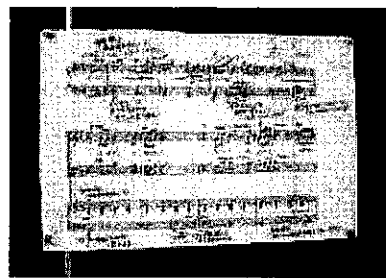
(7) 題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

次		ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
第一次	題材の評価規準	・歌詞の内容（歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情、歌詞の成立の背景など）や曲想（その音楽固有の表情や味わいなど）に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方、読譜の仕方など）を身に付けて歌っている。
	学習活動における具体的評価規準【評価方法】	歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情、歌詞の成立の背景や曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察】	音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの変化などの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【観察】	曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方、読譜の仕方を身に付けて歌っている。 【観察】
第二次	題材の評価規準	声部の役割（音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など）と全体の響きとの関わりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能（同上）を身に付けて歌っている。
	学習活動における具体的評価規準【評価方法】	音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目と全体の響きとの関わりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察・ワークシート】	音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの変化などの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。 【ワークシート②③④・発言】	声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方、読譜の仕方を身に付けて歌っている。 【演奏】

(8) 指導と評価の計画

[illegible]

指導内容 学習活動		具体の評価基準	☆指導の工夫
■ねらい○指導内容・学習活動		【評価方法】	◎生徒が自ら工夫するポイント
第 二 次	第 四 時 (本 時)	■声部の役割を生かす表現を工夫する。 ○どの要素を工夫するのかを意識して、その働かせ方を楽譜に記入する。 ・自分が考えた工夫や出したい雰囲気、込める思いをワークシートに書き出す。 ・声部の役割を基に、工夫する要素の働かせ方をグループで話し合い、楽譜に書き込む。 ・声部の役割を生かすことを意識しながら、合わせて歌い、つくり出したい雰囲気をつかむ。 ○楽譜に記入した内容を確認する。 ・全体を通して実際に歌い、記入した内容が適切かどうか確かめる。 ・記入内容をもう一度見直して、話し合う。	☆スムーズに取り組めるよう、冒頭部分で例を示す。 ◎要素に注目することによって、表現の工夫を具体的に言葉で表せるようにする。 ◎実際に歌ったり、話し合ったりすることを繰り返し、表現の上で工夫した点を明確にしていく。
	第 五 時	■工夫した表現の仕方を伝え合い、実際に歌って表現する ○全体で合わせて歌いながら、前回の記述内容を確認する。 ・自分たちの書き込みを見ながら歌って確認する。 ○グループごとに、自分たちの工夫について全体に伝え、実際に歌って確認する。 ・伝えられたイメージや指示が実現するように、表現する。 ・自分たちの意図が実現したかどうかを判断して聴き、相互評価する。 ○全体を通して歌い、学習したことをまとめる。 ・声部の役割と全体の響きを意識しながら、表現を工夫して歌う。 ・学習したことを各自で文章にまとめ、プリントに記入する。	観点イ 【発言】 観点ウ 【演奏】 観点イ 【ワークシート③④】 ◎工夫を伝え合うことを通して、言語と音によるコミュニケーションを実現する。 ☆各グループで課題になった部分以外にも意見を出し合い、一層の工夫につなげる。 ◎表現を工夫することについて自分の考えをまとめる。



(9) 本時の展開 (全5時間の中の4時間目)

ア 本時の目標

声部の役割を生かす表現を工夫する。

イ 本時の展開

	指導項目	○学習活動【評価方法】 ◎生徒が自ら工夫するポイント	指導上の留意点 (☆指導の工夫ポイント)
導入	前時の復習	○声部の役割を意識しながら、ピアノの音に合わせて「予感」を全員で通して歌う。	☆ワークシートを見て、自分の役割を思い出す。
展開	楽譜に書き込む内容の確認 ワークシートと楽譜への記入	○楽譜に書き込む内容や考え方を確認する。 ○自分が考えた工夫や出したい雰囲気、込める思いをワークシートに書き出す。 ○声部の役割を基に、工夫する要素を選択しながら、その働かせ方をグループで話し合う。 ○声部の役割を生かすことを意識しながら、合わせて歌い、つくり出したい雰囲気をつかむ。 ◎要素に注目して、表現の工夫を具体的に言葉で表し、ワークシートに記入する。 ○記入内容の中間発表を行い、記入内容を見直したり、更に書き込んだりする。 観点イ【ワークシート②】	・冒頭部分(伴奏→ユニゾン)を拡大した楽譜を提示し、例を挙げて説明する。 ・課題になっている部分を歌って確かめるようにする。 ☆実際に歌ったり、話し合ったりすることを繰り返し、表現の上で工夫した点を明確にしていく。 ・他のグループの意見を参考にして、話し合いを深めるようにする。
まとめ	全体を通して歌う。 取組表の記入	○記入した内容が適切かどうか確かめながら、全体を通して歌う。 ○声部の役割を生かす表現の工夫ができたか、振り返る。	・他の部分との共通点や違いを感じながら歌うようにする。 

曲名000

課題〇 班

組 番 氏名

実際に取り上げる部分の楽譜を掲載する

①

自分たちの楽譜について整理しよう。
各パートの役割に○をつけ、役割が変わる場合は矢印でつなごう。○→○ ○=○ ○
に△印の重なりやからみ具合に注目するとわかるよ！

ソング	主旋律	オブリガート	追っかけ	かけ合い
	ハーモニー	エコー（こだま）	さきがけ	（ ） （ ）
アムト	主旋律	オブリガート	追っかけ	かけ合い
	ハーモニー	エコー（こだま）	さきがけ	（ ） （ ）
テイル	主旋律	オブリガート	追っかけ	かけ合い
	ハーモニー	エコー（こだま）	さきがけ	（ ） （ ）

②

パートの役割や曲の作りを生かして、よりよい合唱にするための工夫を上達の面に書き込もう！
班で話し合う前に、自分が思いつく工夫を書き出してみよう

★変化する、工夫し続けること（理由もあわせて）

例えば…

- ・ 楽譜の楽化や工夫
- ・ 変奏（テンポ）の工夫
- ・ 音色の工夫（発声の工夫）
- ・ 発音の工夫・仕方
- ・ リズムの生かし方
- ・ パラソンの工夫
- ・ 伴奏との関わり方の工夫
- ・ 伴奏との雰囲気やこめも思いも書き込もう

★出し入れや雰囲気やこめも思いも書き込もう

③-④-⑤-⑥-⑦-⑧-⑨-⑩-⑪-⑫-⑬-⑭-⑮-⑯-⑰-⑱-⑲-⑳-㉑-㉒-㉓-㉔-㉕-㉖-㉗-㉘-㉙-㉚-㉛-㉜-㉝-㉞-㉟-㊱-㊲-㊳-㊴-㊵-㊶-㊷-㊸-㊹-㊺-㊻-㊼-㊽-㊾-㊿

③

最後の部分について表現の仕方を考えよう

小節番号	どのパートをどうする	それはなぜ？
〇〇小節		
後半から		

2 鑑賞分野における検証授業

(1) 題材名「音楽の仕組みを理解しよう～テクスチュアを知覚・感受する～」

(2) 題材設定の理由について

鑑賞の活動においては、曲のよさや特徴を解釈したり、価値を考えたりして、音楽のよさや美しさなどを味わって聴く力を育てることが重要である。本題材では、【B鑑賞】(第2学年)の指導事項アにある「音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わり」を理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうことに注目し、第一学年での学習を踏まえ、知覚し感受することの一層の深化を図ることを目的とした。

そこで、[共通事項]アにある旋律や形式などのそれぞれの要素に着目し、特に、テクスチュアとどのように関わり合っているかということに焦点を合わせ、根拠をもった批評ができる力の育成をねらいとした。

(3) 学習指導要領の指導事項(第2学年及び第3学年)

【B鑑賞】

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。

[共通事項]

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

(4) 指導事項から導き出される具体的な指導内容

【B鑑賞】

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わう。

[共通事項]

ア 音色、旋律、テクスチュア、形式などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受する。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解する。

(5) 教材

J.S.バッハ作曲 「小フーガ ト短調」 BWV578

(6) 題材の目標

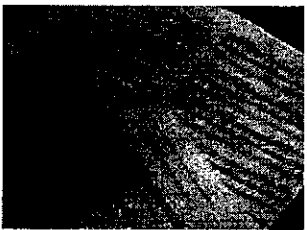
パイプオルガンの響きに親しもう。

旋律と旋律が絡み合うおもしろさを味わおう。

主題が様々な声部に表れることに注意して聴こう。

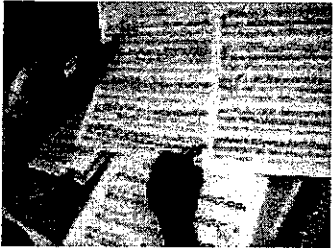


(7) 題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 鑑賞の能力
題材の評価規準	音楽を形づくっている要素や構造（音楽を形づくっている要素そのものや要素同士の関わり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様など）との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
学習活動における 具体的評価規準【評価方法】	「小フーガト短調」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式や構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察・ワークシート】 	「小フーガト短調」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わっている。 【ワークシート・批評文】

(8) 指導と評価の計画（4時間扱い）

	指導内容 学習活動 ■ねらい○指導内容・学習活動	具体的評価規準 【評価方法】	・指導上の留意点 ☆指導の工夫ポイント ◎生徒が自ら工夫するポイント
第1時	■学習のポイントを理解する。 ○4時間の学習計画の理解 ■「小フーガ ト短調」を鑑賞し、フーガ、作曲者、パイプオルガン、主題について知覚し感受する。 ○曲を「楽曲の特徴」と「パイプオルガン」の2項目に分け、それぞれの細目について、気付いた点を記述する。 ○各声部の冒頭主題を記譜する。	観点ア 【観察】 観点ア・イ 【ワークシート課題1】 観点イ 【ワークシート課題2】	☆自分の変容を知るために、学習前(A)に記述させる。 (→p19 課題1A欄) ◎主題を理解するために、記譜をする（一声部につき、2小節の記譜をする）。 ◎旋律の音型・調性について、視覚的に捉える。

第2時	■「小フーガ ト短調」を分解、分析し、主題を基に曲の仕組みを理解する。 ○前時に課題2で記譜した旋律から、気付いた点を記述し発表する。 ○形式、構成について理解する。  ○主題と相似の音型の旋律を聴き取り、音の響きから長調・短調を判別する。 ○主題と相似の音型を楽譜上から見付け、符尾の向き及び音域、音色等から、声部の属性を判別する。	観点イ 【ワークシート課題2】 観点ア 【観察】 観点イ 【ワークシート課題3】 観点イ 【ワークシート課題4】	・音声、映像、楽譜等を活用し、視聴させる。 ・気付きを高められるよう、視聴覚機器などを活用する。 ☆主題の理解を深めるために、ワークシートと楽譜を活用する。 ◎楽譜にマーカーで印を付けるなどして主題や声部を知覚、理解する。 ・主題の旋律をピアノなどで演奏し、各声部における主題の箇所を示す。 ・これまでの調及び音階の学習で学んだ調号及び臨時記号から調判定ができることを助言する。 ◎音だけではなく、知覚した主題の音型や声部を示す符尾や演奏の様子等から、視覚的にも理解する。
第3時	■主題、及び他の声部の役割を理解し、テクスチャを知覚、感受し、フーガの美しさを感じ取る。 ○これまでの学習で学んだ主題のみならず、他の声部にも着目し、音や旋律の組合せ方、多声的な音楽の構造を理解する。	観点ア 【観察】 観点イ 【ワークシート課題5、6】	☆テクスチャを知覚し感受するために、ワークシートと楽譜を活用する。 ◎対旋律の音のつながり方、方向性、音階、調などを主旋律に絡めて理解する。 ☆自分の変容を知るために学習後(B)に記述させる。 (→p19 課題1のB欄)
第4時	■批評文(紹介文)の作成と発表 ○聴いた音楽の「よさ」を、音楽を形づくっている要素やそれらの働きを表す用語や記号を用いて、他の人に紹介する文を書き、発表する。	観点ア 【観察】 観点イ 【ワークシート・批評文課題6、7】	☆自分の変容を知るために学習後(B)に記述させる。 これを参考に、批評文を完成させる。 ◎これまでの学習で学んだことを生かしながら根拠をもって批評する。

(9) 本時の展開 (全4時間中の第3時間目)

ア 本時の目標 「小フーガ ト短調」を鑑賞し、主題、及び他の声部の役割を理解し、テクスチュアを知覚、感受し、フーガの美しさを感じ取る。

イ 本時の展開

	指導内容	○学習活動【評価方法】 ◎生徒が自ら工夫するポイント	指導上の留意点 (☆指導の工夫ポイント)
導入	前時の復習 課題4を再検証し、学習したことを確認する。	○形式や主題について知覚、理解したことを確認する。 観点ア【観察】	
展開	「小フーガ ト短調」の視聴 ワークシート 課題5 主題以外の旋律に着目し、テクスチュアを知覚、感受する。	観点ア【観察】 ○これまでの学習で学んだ主題のみならず、他の声部にも着目し、音や旋律の組合せ方、多声的な音楽の構造を理解する。 ◎対旋律の音のつながり方、方向性、音階、調などを主旋律に絡めて理解する。 ・予想される発言 「16分音符やトリルなど細かい音符やリズムが使われている」「後半でだんだん音が高くなっていく部分がある」等 観点イ 【ワークシート課題5】	・音声、映像、楽譜等を活用し、視聴させる。 ☆テクスチュアを知覚し感受するために、ワークシートと楽譜を活用する。 ☆主題のみ色の付いた楽譜を、書画カメラ等を利用し提示しながら視聴することで、視覚的に旋律の特徴を捉える。 ☆記述した内容を発表させ、理解を共有する。 ・16分音符やストレッタの部分を楽譜で提示しながらピアノなどで確認する。 ☆発表された内容によってどのような効果があるか、主題と他声部との関わりや役割などに着目して視聴するよう助言する。
	記述した内容を発表させ、主題以外の旋律にどのような効果や役割があるか感受する。 「小フーガ ト短調」の視聴 気付いたことを発表させ、主題以外の旋律の効果や役割、テクスチュアについて知覚し、フーガの美しさを感じ取る。		
	ワークシート 課題6 知覚・感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈する。	○学習前(A)の記述を基に、感じたことを音楽の諸要素と絡めて的確な言葉で分析、解釈する。 観点イ 【ワークシート課題6】	☆自分の変容を知るために、学習後(B)に記述させる。 
まとめ	本時のまとめ	○ワークシートの確認 ○次時の学習内容を知る。	・本時の鑑賞活動を振り返らせ、記入漏れがないか確認させる。

(10) ワークシートの例

第2学年 音楽科『鑑賞』学習プリント

組	番	氏名
---	---	----

評 価	A
	B
	C

《プリントの取扱いについて》

① 本紙は毎時の授業に教科書（上）とともに必ず使用します。

② 本単元授業終了時に提出をするので、課題・説明等きちんと記入しましょう。

学習項目一覧表

課題 1・6	チェック欄	学 習 項 目	
		※チェック欄のチェックボックス□に十分に満足できる学習成果の場合にチェックマークを入れます。	
課題 1・6	☐	楽曲の特徴 リズム 速度 旋律 強弱 調性 その他	
	☐	パイプオルガン 音色 鍵盤(声部)による音色の違い 奏法	
課題 2	☐	主題（第一声部）旋律記譜	
	☐	主題（第二声部）旋律記譜	
	☐	主題（第三声部）旋律記譜	
	☐	主題（第四声部）旋律記譜	
	☐	各主題に関する記述（気付いた点等）	
課題 3	/10	各主題の調判定（長／短）	
課題 4	/10	主題が各声部に現れる箇所の聴取（声部の判別）	
課題 5	☐	主題以外の旋律に関する記述（気付いた点等）	
課題 7	☐	批評文(紹介文)	

単 元 ➡ 小フーガ ト短調
ヨハン セバスティアン バッハ
 Johann Sebastian Bach (1685～1750)

学習内容 ➡ パイプオルガンの響きに親しもう。
 旋律と旋律がからみ合うおもしろさを味わおう。
 主題がさまざまな声部に現れることに注意して聴こう。

課題1 「小フーガ ト短調」を視聴し、気付いたことをA欄に記述しましょう。

	要素	A 欄	B 欄
楽曲の特徴	リズム		
	速度		
	旋律		
	強弱		
	調性		
	その他		
パイプオルガン	音色		
	鍵盤(声部)による音色の違い		
	奏法		

課題6 学習を通して学んだことをふまえて、B欄に記述しましょう。

課題7 この曲の「よさ」や「特徴」などについて、紹介文を記述しましょう。

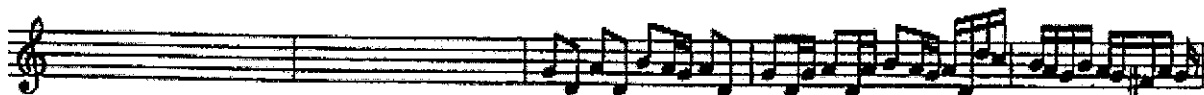
キーワード： 主題 形式 テクスチャ 雰囲気 曲想 イメージ 学習した音楽の要素

[illegible]

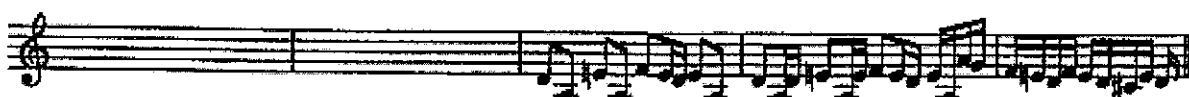
課題2 ① 教科書p.32及び別紙楽譜を参照し、「小フーガ ト短調」の各声部の主題を記譜しましょう。

注意 調号は必ず記譜すること。
各声部は単一声部として記譜するので符尾の向きに気をつけましょう。

第一声部（S）に現れる主題 【 調】



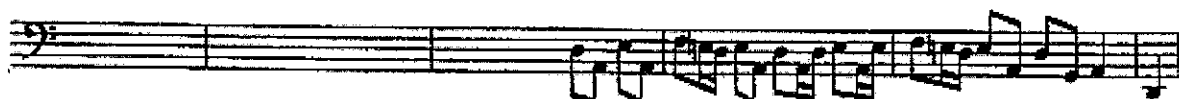
第二声部（A）に現れる主題（応答） 【 調】



第三声部（T）に現れる主題 【 調】



第四声部（B）に現れる主題（応答） 【 調】



② 四つの声部の主題を記譜した上で気付いた点等を記述しましょう。

課題3 各主題(1～10回)における調性（長調または短調）を判別し、該当する欄に○印を記入しなさい。

		第1部				第2部					第3部
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
調性	長 調										
	短 調										

課題4 フーガの形式を理解しながら「小フーガ ト短調」を視聴し、計10回現れる主題が奏される声部に○印を記入しなさい。

		第1部				第2部				第3部	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
声部	第一声部 (S)										
	第二声部 (A)										
	第三声部 (T)										
	第四声部 (B)										

課題5 「小フーガ ト短調」を視聴し、主題以外の旋律に着目し、気付いたことを記述しましょう。

～関連資料～

BWV (ベー・ヴー・エー・ファウ) … バッハ作品目録の略

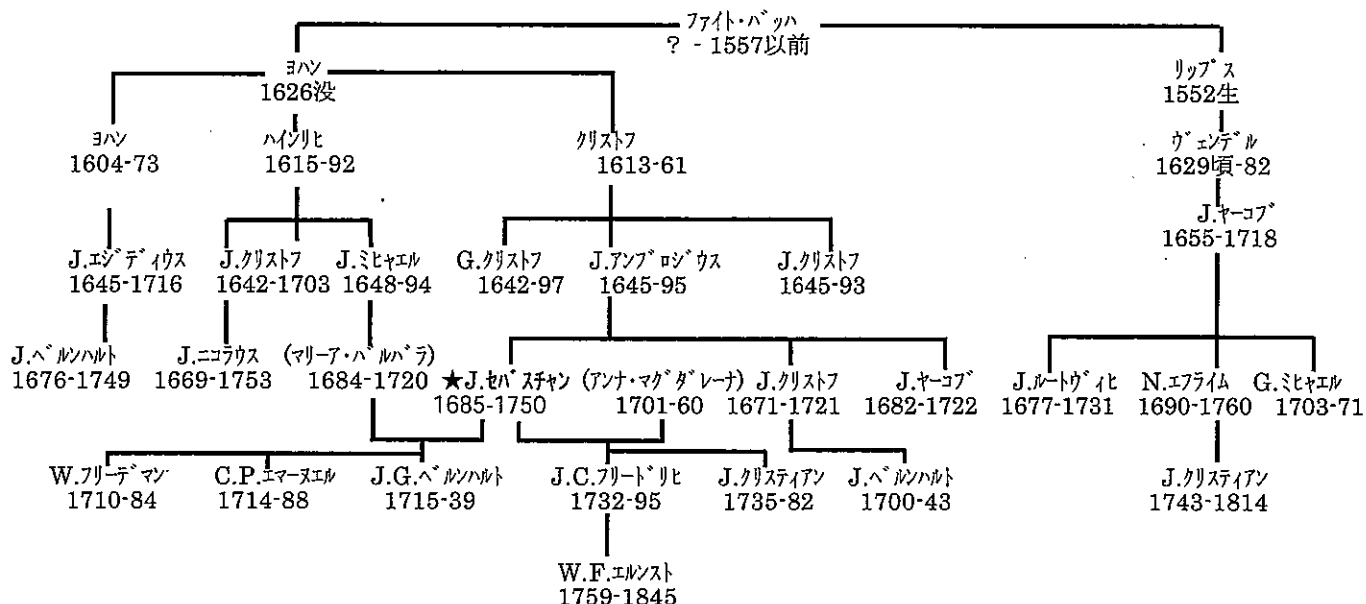
単声音楽 モノフォニー … 単旋律の音楽形態または音楽様式

多声音楽 ポリフォニー … 複数の声部が、それぞれの独立性を保持しつつ動く音楽形態

和声音楽 ホモフォニー … ある1声部が主旋律をうけもち、多声部はそれを和声的に伴奏する音楽形態または音楽様式

J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685～1750)

ドイツの音楽家。バロック派。多声音楽の手法で数多くの曲を残し、「音楽の父」と呼ばれているバッハの家系は200年にわたって50人以上の音楽家が輩出した大音楽家系で、遺伝学上でも興味ある対象とされている。



V 成果と課題

1 成果

本研究では、学習指導要領に新設された〔共通事項〕を手掛かりとして、生徒が自ら表現を工夫できる指導法を研究し、生徒の主体性を高め、思考、判断したことを生かして表現することができたかについて、検証授業を実践し、その有効性を検証してきた。その結果から、本研究の成果と今後の課題をまとめた。

- (1) アンケート調査の結果から、〔共通事項〕を手掛かりとした授業を実践することで、生徒は、学習後より多くの音楽的な要素を意識して学習活動に取り組むことができた。
- (2) 教師が〔共通事項〕を手掛かりとした授業を実践することで、生徒にとって学習するポイントや、表現を工夫する手だてが分かりやすくなった。
- (3) 生徒が、音や音楽に対してもったイメージを〔共通事項〕に示されている要素を基に分析し、考え、工夫していくことで、生徒の漠然としたイメージが、より明確化された。
- (4) 音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号を理解した上で、生徒自身が表現を音楽的根拠をもって創意工夫し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりすることができた。
- (5) 〔共通事項〕を活用して批評文を書くことにより、生徒が知覚し、感じ取ったことを音楽的根拠をもって具体化することができ、学習したことが、どのように理解されたかを把握しやすくなった。
- (6) 生徒が知覚・感受したことを、「自分はこのように表現したい」という思いや意図をもち、思考・判断しながら表現を試行錯誤していくことで、自己の感性を高めたり、学習に対する考えを深めたりして、音楽への興味や関心を高めることができた。
- (7) 〔共通事項〕を意識したワークシートを開発し、活用することで、音楽の諸要素の働きやイメージ、雰囲気などを考え、音楽の構造的特徴と自身の音楽表現の工夫を関連付けることができるようになった。

2 課題

- (1) 〔共通事項〕の各々の要素や、音楽表現に関わる記号、用語などを単なる知識としてだけで教えるのではなく、あらゆる場面においてより計画的に指導し、理解させていくことが必要である。
- (2) 生徒が思考・判断し、自分の意図や思いに基づいて音楽表現をしていくに当たって、その表現を支える技能を身に付けていく必要があり、そういった指導の工夫や改善を行うことも大切である。
- (3) 生徒が、知覚・感受し、工夫したことを表現したり、音楽のよさや美しさを生み出している様々な要素や働きを具体的に言葉で表したりするために、語彙力を身に付ける必要がある。そのために、他者との話し合い活動などで言葉を伝え合い共有するなど、言語活動の充実をより一層図っていく必要がある。

Ⅵ 調査資料データ

- (1) **調査Ⅰ** 共通事項を支えとした授業展開が、生徒の主体的な音楽活動への意欲向上につながったか。

調査Ⅰの集計結果							
		12月	9月	12月	9月	12月	9月
		%	%	総計	総計	総数	総数
1	音楽の授業で歌うとき、自分の思いや考えが表現できるように歌うことが好きですか？						
	好きだ	33.7%	25.7%	124	95	368	369
	どちらかと言えば好きだ	49.5%	49.3%	182	182		
	どちらかと言えば好きではない	14.4%	20.1%	53	74		
	好きではない	2.4%	4.9%	9	18		
2	音楽の授業で歌うとき、旋律やリズムの特徴を生かす工夫をしていますか？						
	そうしている	32.9%	16.3%	121	60	368	368
	どちらかと言えばそうしている	53.8%	52.4%	198	193		
	どちらかと言えばそうしていない	11.7%	25.0%	43	92		
	そうしていない	1.6%	6.3%	6	23		
3	音楽の授業で歌うとき、その曲のふさわしい強弱や速度の工夫をしていますか？						
	そうしている	50.5%	32.2%	186	119	368	369
	どちらかと言えばそうしている	41.6%	49.9%	153	184		
	どちらかと言えばそうしていない	7.1%	15.4%	26	57		
	そうしていない	0.8%	2.4%	3	9		
4	音楽の授業で合唱するとき、自分のパートの役割を生かす工夫をしていますか？						
	そうしている	40.8%	28.5%	150	105	368	368
	どちらかと言えばそうしている	50.0%	50.0%	184	184		
	どちらかと言えばそうしていない	8.7%	18.5%	32	68		
	そうしていない	0.5%	3.0%	2	11		
5	音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか？						
	好きだ	39.4%	30.6%	145	113	368	369
	どちらかと言えば好きだ	44.8%	43.6%	165	161		
	どちらかと言えば好きではない	14.4%	21.1%	53	78		
	好きではない	1.4%	4.6%	5	17		
6	音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽の声や楽器の音色の特徴を聴き取っていますか？						
	そうしている	31.3%	24.4%	115	90	368	369
	どちらかと言えばそうしている	53.0%	44.7%	195	165		
	どちらかと言えばそうしていない	14.4%	25.2%	53	93		
	そうしていない	1.4%	5.7%	5	21		
7	音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽の旋律やリズムの特徴を聴き取っていますか？						
	そうしている	33.7%	22.5%	124	83	368	369
	どちらかと言えばそうしている	50.3%	50.7%	185	187		
	どちらかと言えばそうしていない	14.7%	22.2%	54	82		
	そうしていない	1.4%	4.6%	5	17		
8	音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽から感じ取ったことを言葉や文章などで表すことは好きですか？						
	好きだ	14.4%	12.0%	53	44	368	367
	どちらかと言えば好きだ	38.9%	28.1%	143	103		
	どちらかと言えば好きではない	37.0%	43.1%	136	158		
	好きではない	9.8%	16.9%	36	62		

- (2) **調査Ⅱ** 音楽を形づくっている要素等について生徒が注目している要素について選択する調査（複数選択回答可）

調査Ⅱの集計結果			事後	事前	事後	事前	事後	事前
			%	%	総計	総計	総数	総数
《鑑賞》	1	リズム	76.0%	69.3%	206	183	271	264
	2	旋律（メロディー）	72.3%	63.3%	196	167	271	264
	3	ハーモニー（響きや音の重なり）	58.3%	42.4%	158	112	271	264
	4	雰囲気	72.0%	65.5%	195	173	271	264
	5	音色	52.0%	40.5%	141	107	271	264
	6	強弱	63.8%	49.2%	173	130	271	264
	7	速度（テンポ）	74.5%	64.0%	202	169	271	264
	8	調（長調・短調）	55.4%	26.5%	150	70	271	264
	9	形式	19.9%	4.2%	54	11	271	264
	10	構成	21.4%	11.0%	58	29	271	264
	11	演奏者	14.8%	8.3%	40	22	271	264
	12	指揮者	15.1%	10.2%	41	27	271	264
	13	楽器	53.9%	42.4%	146	112	271	264
	14	奏法	25.5%	8.0%	69	21	271	264
	15	場所	6.3%	4.2%	17	11	271	264
	16	好み（好き・嫌い）	55.7%	54.2%	151	143	271	264
	17	楽曲の背景	17.3%	9.1%	47	24	271	264
《歌唱》	1	リズム	85.1%	71.5%	313	263	368	368
	2	旋律（メロディー）	80.7%	65.5%	297	241	368	368
	3	テクスチャ	37.8%	10.1%	139	37	368	368
	4	伴奏	37.5%	19.0%	138	70	368	368
	5	強弱	83.7%	52.2%	308	192	368	368
	6	速度（テンポ）	85.9%	64.1%	316	236	368	368
	7	歌詞の内容	60.9%	32.9%	224	121	368	368
	8	言葉	44.8%	22.8%	165	84	368	368
	9	言葉の発音	57.1%	28.3%	210	104	368	368
	10	音色（発声）	67.4%	34.5%	248	127	368	368
	11	パートの役割	72.0%	37.0%	265	136	368	368
	12	調（短調・長調）	50.3%	15.2%	185	56	368	368
	13	形式	17.4%	3.3%	64	12	368	368
	14	構成	30.2%	9.2%	111	34	368	368

平成23年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 音 楽

地区	学 校 名	職名	氏名
港区	赤坂中学校	主幹教諭	高 橋 秀 一
品川区	鈴ヶ森中学校	主任教諭	山 田 泰 子
品川区	荏原第一中学校	教諭	小 林 史 子
武蔵野市	第五中学校	教諭	高 原 佐也子
新島村	式根島中学校	主任教諭	○深 滝 恵

○ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
統括指導主事 角 康 宏

平成 23 年度
教育研究員研究報告書
中学校 音楽

東京都教育委員会印刷物登録

平成 23 年度第 181 号

平成 24 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 有限会社 シーダー企画